

# 林大だより



第 69 号 平成 27 年 3 月 15 日

長野県林業大学校翌協会



1 学 年 樹木学実習 (上松町赤沢自然休養林)



2 学 年 樹木医学 (阿智村)



岐阜森林アカデミー、京都府林業大学校との交流 (岐阜県美濃市)

## 卒業にあたり…

翌松会 会長 根井 淳智



林業大学校に入学してあっという間に二年間が過ぎようとしていきます。全寮制という事もあり、職員の皆様には学業のみならず私生活まで面倒を見てもらい大変感謝しているところでございます。

今年度は南木曾町の土石流、御嶽山の噴火と、木曾において自然災害が多くみられた年でした。多くの行方不明者がまだ残されている状況です。これからも林業に携わる子供達はどうか感じ取ったでしょう。自然の力に対して、人間はあまりにも無力と私は思いました。社会人になる卒業生は今後山や森に接する機会が多い人もいます。富める自然と、危険がある自然。両方を知ったうえで今後の仕事に役立ててもらいたいと思います。

今まで学校生活の中では同年代の仲間達と付き合ってきたと思いますが、社会人となると幅広い年齢層の中で付き合っていくなくてはなりません。アルバイト等で少しは経験を積んだかもしれませんが本番はこれからです。おそらくこれから辛い事など多くあると思いますが林業大学校で学んだ二年間を支えにして何とか乗り越え、そして活かし、未知の可能性がある君達にはあらゆる意味で成功してもらいたいと思います。

新年度には新しく実習棟、女子寮が完成します。これにより今後も林業大学校は更なる発展が約束された事になります。伝統ある林業大学校から、これからずっと先まで素晴らしい人材が育成され続ける事を、同じ木曾の地から応援していきます。

最後に職員の皆様、講師の皆様、そして寮母さん、大変お世話になりました。

## 林大の一年を振り返る

長野県林業大学校 校長 田島 裕志



木曾駒ヶ岳に残雪が輝く四月、全国各地から新入生を迎え、林大の一年が始まる。新しいスタートは、未来への希望に満ち新入生の目は輝いている。そして全寮制による林大生活がスタート、二年生は後輩を迎え顔つきも変わってくる。

屋久島研修に続き、授業や実習、日々のアルバイトなどを通じて連休明けには木曾での生活にも慣れてくる。七月御嶽山登山、昨年度は雨だったが、今年度はご来光も。二年生はオーソトリア研修に、世界の最先端から学ぶことは多い。南木曾町土石流災害のニュースもオーソトリアで知る。そして祭り、水無神社の神輿まくりで一学期が終わる。

黒川に蛍舞う夏休み、学生

はインターンシップや故郷への帰省、学校はオープンキャンパスや学生が居ぬ間の行事が続く。

今年度は、二学期のスタートとともに実習棟・女子寮棟の改築が始まる。そして、衝撃的な出来事、御嶽山が噴火。登山部は乗鞍岳頂上から噴煙を目撃、木曾町駅伝など各種行事が中止になる中、迷いつつもあえて寮祭を開催、犠牲者に黙とうを捧げる。朝スピーチでも御嶽山にまつわる話題が続く。

そして、就職試験、図書館(自習室)の明かりが夜遅くまで消えない日々が続く、紅葉が深まる十一月、次々に届く就職内定の知らせ、学生の笑顔に職員室は喜びに満たされる。

一方、新たな入学生を決める推薦入試の時期が来る。現役生は各学科の試験が続き、校長の執務机の前では、追試を受ける学生もちらほらと。

冬休みは家族や友人と語る

機会に、学校では一般入試の準備が進む。一月の合格者発表で新たに迎える学生が出そろおう。

二月、木曾町冬の名物雪明り散歩路へ参加、御嶽山噴火による犠牲者追悼のため千羽鶴を捧げる。そして三月、卒業式。厳粛な卒業式とのギャップが楽しい謝恩会。卒業生と保護者が一緒に行うスピーチに涙。二年間という短い時間だが、なんと濃密な時間だったか。林大スタッフ、とりわけ担任教授にとつては全寮制が持つ日々の重みからの解放感と安堵感、そして二年間という時間を共有してきた学生から贈られる言葉、社会に送り出す喜び、全てはこのためにあったと思わせる瞬間がそこにはある。

そして、新入生を迎え新たな一年がスタートする。こうした日常を三十六年間繰り返して、七百名近い卒業生を送り出してきたのが林大の歴史なのだと思ふ。

古い話になるが、明治期に創設された木曾山林学校では、優秀な人材が全国から木曾に集い、当時の最先端の林学を学び、卒業後全国に赴任し各地の林業の礎を築いたと

いう。政治や行政など中央で日本という国をリードしてきたのが東大など旧帝国大学の卒業生達だとすると、木曾山林学校はその対極にあった。近年、地方の時代とよく言われるが、そのためには地方が主体性を持って地方にとって真に必要な人材を育成していくことが大切だと思う。

今年も林大から二十人の個性的な学生が卒業し、四月には全国から二十人の学生を迎え、新しい一年が始まろうとしている。そして、林業や山村を元気にするため、さらには自らの人生を豊かにするため、悩みながらも日々頑張っているという便りが、卒業生の赴任地から届くのを楽しみにしたいと思う。そして応援もしていきたい。

## 素晴らしき長野県林業大学校

長野県議会 副議長 村上 淳



昨年は木曾地域にとつて試練の年でした。自然災害に被災、南木曾町の土石流災害や御嶽山の噴火災害があり、特に御嶽山の被害は多くの尊い人命が亡くなるなど改めて自然の脅威を感じました。犠牲になられた皆様に改めてご冥福をお祈り申し上げ、行方不明の皆様の捜索を迅速に進めていただきたく思います。

さて、木曾地域に長野県の誇る林業大学校を設立してすでに三十六年の歴史がありますが、私は、この学校を長野県として作ってよかつたといづく思います。現在、私はこの学校の学校運営協議会委員を委任されておりますが、学校には年に運営協議会や学校祭など何度も訪れます。元気で澁刺とした生徒を見たり、話をするとこちらも元気ができます。この子供たちがいつか近い将来、本県や全国いたるところで森林業の最前線で活躍すると思うと実にたのしい林業家が育まれています。

す。この学校の特色は、全寮制で地域密着型です。基本的には二年間、二十四時間木曾町での生活です。学校運営は田島校長や多くのすぐれた教授陣が進めております。一方、生徒の普段からの生活や健康管理などご苦労も多いと思います。一般教養に加え専門分野ではさすが県林務部が運営主体であり、実に効率的に森林理論を教授しており、地域企業とのインターンシップも実践的連携を進めており、また卒業後の就職率は実によく、進学組は国立大学と連携しており、三年編入可であります。

このような素晴らしい教育環境を維持していくには普段の努力も必要です。学校運営協議会には専門の大学等の教授や地元の町村長なども含まれており、実に中身の濃い議論が毎回行われています。これからの時代は今ままで以上に林業や農業が期待されています。この学校に対する社会の期待度は膨らんでおります。将来に亘り、本県林業の未来を託すことのできる優れた林業家が一人でも多く輩出されますことを願っております。

## ふたつの災害を経て

木曾青峰高等学校長 外山 勇一



昨年、大きな災害がふたつ木曾を襲いました。自然の脅威の前で人間はあまりに無力であることを思い知らされました。この災害が木曾のイメージダウンに繋がるのではないかと心配しています。早くに木曾を元気にする手だてを講じなければなりません。

林大の皆さんはさまざまな地域貢献をされていることと思います。それらは地域の方々よりたいへん感謝されており、君たちにとつても、地域の方々から認められたということが自信に繋がっているとともに、この地への愛着も一層増したのではないのでしょうか。一方でいままでの地域貢献は、地域からの要望を受けて行っているものが殆どであり、若者が主体的に取り組んできたとは言えません。

災害からの復興は勿論ですが、いま直面する木曾の最大の課題は、急激に進行する人口減少であると考えます。

田舎暮らしに憧れて、インターンしてきてくださる方々も少なくないですが、一番大切なことは若者の流出を食い止め、若者を増やすことではないかと考えます。より多くの人が木曾で仕事を見つけ、よき伴侶を見つけ、木曾に住み続けてもらいたいと願うば

ここには林業大学校ばかり



1 学年 樹木学実習 (上松町 木下箸製作所)

林大に入学してから、知らず知らずのうちにもう一年の月日が経ち、先輩方はもう卒業の時期を迎えている。入寮日には、先輩方が荷物を運んでくれて、緊張する私に優しく話しかけてくれたことが、今でも記憶に新しく昨日のこのよ

うに思える。この一年、たくさんの思い出ができた。巡りあえた同級生や先輩達、林大の教室や、死ぬほど笑い合い、語り合った寮の部屋…、何ひとつ欠けていいものはない。今、皆と共にいるこの場所がとても好きだ。先輩方が卒業したら、次は私が先輩という立場になる。今まで『オンブニダッコ』だった私も自覚を持たなければならぬ。新学期から一年間、精一杯やりぬき私も悔いの残らないように卒業してきたい。先輩方はこの学校で、色々な知識や学校の楽しさを教えてくれたし、私もそれを先輩達にも伝えていくつもりだ。先輩達も、卒業してふと思い出したり、懐かしくなったり遊びにきてほしい。また笑い合い、語り合いたいな、いつかまたここで。



でなく、木を学ぶ高校生、そして信州木曾看護専門学校、さらに木から創造する上松技術専門学校があります。それらが連携して地域に何かを発信できれば、もつとこの地域を元気にできるのではないかと考えています。今後の林大生のますますの活躍を期待しております。



1 学年 桐生 悦朗

いつかまたここで

学校・寮生活から

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき



1 学年 坂口 龍之介

私が一年 林大で過ごして

四月に入学して早くも十ヶ月が過ぎ、あと約一ヶ月で春休みになり二年生が卒業し私達が二年生になります。それは楽しみでもあり不安でもあります。二年生が卒業し、私達だけで林大を上手くまとめ

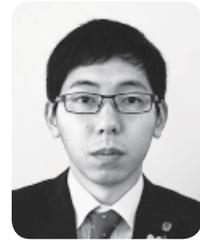
もありません。公務員の試験は専門の教科だけではなく、一般教養もあり私にとってはそこが一番の難関であると思います。専門の勉強は林大で授業や先生に教わる事ができます。しかし一般教養は自分の力だけで勉強しなければならず、とても大変です。また、二次試験の面接もありコミュニケーション能力も試されます。二年生になつてから勉強するのは遅すぎるので今からしっかりと準備し、試験のときに全力が出せるよう努力していきたいです。



1 学年 体験研修 (南木曾町 原皮師)

られるのか。二年次の授業は一体どんなことをやるのか。不安と期待が混ざったような気持ちでいっぱいです。なかでも一番不安なのは就職です。私は公務員志望ですが、公務員の試験は意外と早く四月からもう受付が開始のもの

年上としての自覚を



1 学年  
高見澤 大樹

もう林大生活も一年が経とうとしています。私は大学を卒業した後、林大に入学しました。なので、高校から入学した同級生より四つも年上です。寮生活においてこの四つの年の差は入学時、大きな不安要素でした。しかし、今では良い先輩と同級生、先生方にめぐり合うことが出来、林大での生活は毎日が新鮮で飽きない居心地のいい場所です。しかし、もうすぐ私たちも二年生となり、今まで先輩たちに頼っていたところから今度は先輩たちに頼られる先輩にならなければならぬと同時に、就職に向けて気を引き締めなければなりません。その中でも更に年上の自分「林大を引っ張っていくんだ！」という気持ちを忘れず、先生、同級生からも頼られる人間となる必要が、だと考えています。残りの林大

生活をやり残したことが無いように締めるところはしっかりと締め、楽しむときはとことん楽しむ一年にしたいと思えます。

未知の世界!?



1 学年  
中村 龍賀

「俺らが、荷物持つてくよ！」こんな会話から始まった林大生活が、もうすぐ一年が過ぎようとしています。思い返せばちょうど一年前、普通科の高校で学んでいた私に林業という道が開けました。今考えても、何故受かったのか不思議な気がします。今年受験していたり、二年前に受験してれば林大には受からなかったと思えます。

そんなことはさておき、この一年は本当に苦労した一年でした。普通科出身の私にとつては、林業という分野の何もかもが、未知の世界でした。今までの経験がこんなにも役に立たないのかと、思うこともありました。造林学からはじまり、測量、測樹、樹木に関してだけでなく樹木が生息する土壌についても学びました。とてもすばらしい教授の方々のおかげで何とかこなしてくることができました。



1 学年 治山工学 (南木曾町)

いけないし食事も土日は、自炊です。しかしこの生活のおかげで少しは自分のことを自分で出来るようになったかなと思います。残り一年、学べることはいくらでも多く学んで立派に卒業したいです。そのためにも、日々の生活からしっかりとしないと!!!

「将来」に向けて



1 学年  
宮脇 理人

入学してから早いもので一年経った。入試日の朝早く電車に乗り、車中で何度も面接の段取りを思い描き、緊張して試験に臨んだのが懐かしい。私はインターシップに森林管理署と製材会社の二ヶ所に行った。そこでは入学して学び出した頃と同様、初めて目にし、学ぶことばかりだった。管理署では、どんな現場に行くのにも道が必要であり、林道を作ることはとても重要だということ学んだ。

製材会社では様々な機械が動いていたが、OBの先輩を含め会社の方々にはフォークリフトを器用に使いこなして木材を運んでいて、その働く姿に私は純粋にかっこよさを感じるとともに非常に感心した。そういった知識、技術の基礎はほぼ全てこの林大で学ぶことができる。これから私たち一年生は二年生へと進級し、今までもよりも専門的なことを学ぶようになり、実習の量もより増えると思う。この先どんな職業に就いても大丈夫なように、様々な知識、技術を会得できるように一層勉学に励んでいきたい。



1 学年 化学 (生物室)

二年間を振り返って



2学年 榎本 浩実

林業大学校に入学してからの二年間は、今までで一番密度の濃い二年間でした。勇気を出して大阪を出て、本当に良かったです。私は、ここに来てから人と接することが好きになりました。それまでは、極力一人で



2学年 森林資源活用コース (製図室)

がふざけると笑ってくれる人がいるので、つつい調子に乗りすぎてうるさくしてしまったことも、反省しながらいい思い出です。夜遅くまで将来について語りながら、時には共感し、時には反論したりといったその時間が、今思ふと、とてつもなく楽しくて貴重な時間でした。最後に、二年間わがままで、調子乗りで、沢山迷惑をかけたのにもかかわらず、一緒にいてくれて、支えてくれた仲間感謝し終わりにします。本当にありがとうございました。

いたいと思っ  
ていました。  
しかし、こ  
では二十四時  
間ほとんど誰  
かと一緒にい  
ます。気が付  
けば、私から  
人の部屋にい  
き勝手に話す  
ような人にな  
ってしまし  
た。また、こ  
こでの生活で  
は常に笑いが  
あつたように  
感じます。私

編入とこれから



2学年 齋藤 悠樹

林大での二年間が終わろうとしてこの時期に、この様な文を書かせていただいたことは二年間を振り返るよい機会となりました。この二年

間、周囲から見れば私は変わっていないかと思われませんが私自身としてはこの二年間は自身を変えらる大きな転機であり、僅かながらでも変化があつたと思つていま



2学年 開田森林散策 (木曾町)

ことはそれまでの私を省みて改善する転機となつたのみならず、物事に挑戦する意欲を駆り立たせてくれることになりました。進路を編入にきめたのは、色々なものを見て体験したことで知識欲に駆られた結果です。そして編入が決まり、来年度からは大学生活が始まります。ですが私にとつて苦勞をする二年間になります。大学での生活を林大の二年間よりも濃いものにしたしたいと思います。

オワリはじまり



2学年 西田 貴則

私は卒業後の進路を漠然と考えていました。視野に入れていた公務員試験も二ヶ月前に「このままのモチベーションだと絶対に落ちる！」と先生に言われ、今年運良く四、五年ぶりに新規採用をすることになったコンサルタント協会は過去問が無く勉強が捗りませんでした。不安でお腹が痛くなりつつも試験を受け、奇跡的に両方合格することができました。しかし、共に魅力的でどちらに就職するかとても悩み、先生や友人に相談しても結論を出せずにいました。ある時、気分転換に新しい曲を聴こうと探している時、ふと校長先生がよく話してくれる「もうすぐ今日が終わるやり残したことは無いかい」というフレーズを思い出したので調べてみると、かりゆし58「オワリはじまり」という曲で、一日の尊さや人生の

儂さを歌ったものだとわかりました。私は将来このフレーズの問いに対して、胸を張って「無い！」と答えられるか考えると、公務員で少し考えてしまっただのです。こんな些細なことで進路が決まってしまったのですが、自分では良い選択をしたと思っと思っています。



2学年 古田 啓悟

### 林大ラプソディー

まず皆さんに問わせてください。「声をあげて喜んだ経験がありますか？」と。私は、今まで人目をはばからず声をあげて喜んだ経験が二回あります。一回目は高校のバレー部の頃に県大会でベ



2学年 林業機械学実習（木曽町）

スト16を決めた時、二回目はこの長野県林業大学の一般入試に合格した時です。特に林業大学に合格した時の事は昨日の事のように思い出します。

某国立大学への受験を失敗した私は、地元にある長野県林業大学の受験を決めました。必死に勉強をし、何とか合格という結果を頂くことが出来ました。そして、その結果発表の日は母の誕生日でした。母に「最高の誕生日プレゼントになったよ」と言われた時、更に喜びが沸き上が

てきたのを覚えています。苦勞の末入学した林業大学校では、最高の仲間と最高の寮生活が送れました。みんなと勉強した事、遊んだ事など寮生活の全てが私の大切な宝物です。本当に感謝しかありません。こんな私ですが、これから仲良くしてやってください！（笑）

### 今までを振り返って



2学年 渡澤 浩平

まいりましたが、県の試験では合格することができ、一息つけたというところですね。さて、今までの林大だよりを読み返してみると「報われぬ努力は多い」と書いている保護者さんがいました。確かにどんなに頑張っても、苦勞してもその努力が必ず報われる保証はどこにもありません。ですが努力しなければつかめるものもつかめません。四月から県職員として働きます。まだまだ勉強不足なところが多いですが、くじけずに頑張っていこうと思えます。

### おしらせ



新たな実習棟・女子寮4月から使用開始です。  
ますます森林・林業に関する勉強に励んでまいります。



2学年 林業架線学（木祖村）

保護者の  
ページ

# 絵

# の

# 一言

## 地域・社会に 貢献できる人に

小山 浩司



昨年春、念願だった林大に入学し、はや一年。とても濃い一年だったようです。特に御嶽山の噴火は、甚大な被害をもたら

し、衝撃でした。学校行事で七月に登山したばかりだったため、親戚や知人から、心配の電話等を沢山頂ぎ、その事を娘に伝えると、「そんなに大勢の人が、私の事を心配してくれたんだ」と驚いたと同時に、知らない土地に来て、一人ではないんだという事を感じたよう



三重県・長野県知事来校

た。木曾町の方々、先生方、先輩・同級生の皆さんと、充実した毎日をご一緒する事に感謝し、森林の生態系が、人間や地球環境に欠かせないもので、人類はどれほどの恩恵をうけているかを、しっかりと学んでほしいと思っています。そして、これから進路を決めるにあたり、感謝の心を忘れず、地域や社会に貢献できる人に成長し、自分らしく、悔いのない道に進んでほしいと願っています。

## 社会に役立つ人に

佐藤 豊子



親の子離れに二年間は短いかな。どんな人生でも元気に暮らし、どんな分野でも良いので社会の役に立つ人になってくれるのが希望です。もちろん「林業で、ですよね。」

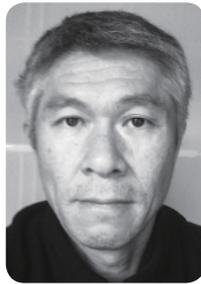
今は、大手企業に入社でき

ても将来の保証もなく、若者が使い捨てられてきている世の中。「究極の就職は自給自足の田舎暮らし」と親の戯言を本気にしたのか、農業系へ進学希望の息子に高校の先生が高三の夏、林大を知ったのが秋。

登山が好きな息子が林大に入学できたのは運命だと感じています。寮生活は毎日が楽しくって家に帰っても早く戻りたいと言います。木曾の人々の優しさに触れ、便利ゆえに待てない人々の多い名古屋に戻ってくる事は無いだろうと感じています。いろんな事を経験してきている先輩方の話や先生方や実習先、バイト先での話を聞くのが、今の私の楽しみです。

# 一

丸山 英記



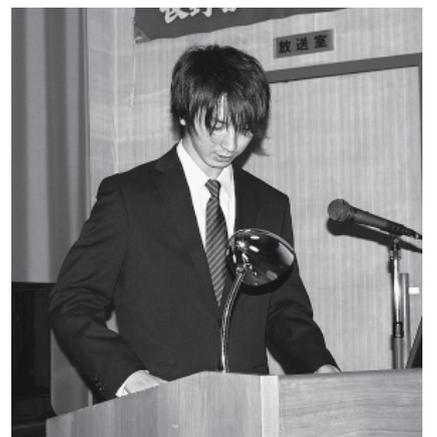
休日はアルバイトで忙しいみたいですが、バイトを通して地域の住民とのつながりも大切にして日々の生活を送ってもらいたいと親ながら思っています。

山での実習は危険と隣合わせだと思いますので、先生や先輩の言うことをよく聞き、特に自分がいる位置と周りの人がいる位置との距離を把握していることが大切なのかなと思っています。

後一年ありますが、授業や貴重な体験を通じて一つ一つ自分の糧にしてもらいたいと思います。

最後になりましたが、学校関係者の皆さまには、引き続きご指導等よろしくお願います。

早いもので、林業大学校に入学して一年が過ぎようとしています。親元を離れるのが初めてのため、寮での生活など大丈夫なのかなと少し不安でしたが、帰省した子どもたちの顔を見ると大変元氣です。



自主学习発表会（講堂）



消防訓練

さあ、あと一年。目的を明確にして、大切な仲間達と共に楽しく充実した生活を送る事を期待しています。

同じ目的、志を持って集まって来た仲間と過す二年間は、新たな価値観を生み、物事を見る幅も広がってくれると思います。そして本人が感じている以上に自分を成長させてくれる事でしょう。

でも最近は少し違う方向から見られるようになって来たように思います。「悩む」ということは、現状に満足していない、何か克服したいことがあるための現象では……。そこには、疑問があったり、観察や比較があったりします。もし、それが克服できた

上伊那の地からアルプスひと山越えた木曾の林大へ入学して二年、もうすぐ卒業ですね。親元を離れ初めての寮生活、大丈夫かなあと心配しましたが何回か帰って来る子供の様子や話を聞くうちに大変充実した日々を送っているの



林大に感謝  
大嶋 洋江

だと感じ安心しました。林大での実習、作業、研修、地域との交流等、実践的な教育が子供にも一つ一つ身につけてきたのを強く感じました。又先生方におかれては、子供達、一人一人に目を配って御指導いただき中身の濃い素晴らしい学校生活を送ることができたと思っています。先生方、皆で一緒に頑張った林大生の仲間の皆さん、地域の皆様に心から感謝申し上げます。子供にはこれから社会人になっても林大で学んだ事を忘れずに林業の発展を担う一人として前進して行ってほしいと思います。



林大と翌検査と  
仲間達と  
和田 裕文

昨年の春、少し緊張ぎみの息子に乗せ、木曾路を目指してから一年が過ぎようとしています。「林業大学校」。息子から聞く校名に、場所も何を

へ。木曾にある全寮制の学校と知り、その選択にちよつとびつくりした事を思い出します。私も高校は県外で寮生活を経験していましたが、寮生活の良さ不自由さが分り多少心配しましたが、得る物は多いぞ、との思いで送り出しました。入学式で先生方とお話をする中で、林大では勉強はもちろん、社会に出る力や、自分の思い通りにならず我慢する事も学ぶとの話がありました。



若かりし頃に  
見えなかったこと  
石井 謙二

私は、社会人になってから趣味として馬に乗り始めました。最初の頃は、感動と面白さに高揚したものです。しかし、それも束の間、真剣に取り組めば取り組む程に、うまくいかず悩むようになりまし

としたら、そこには充実感があるでしょう。しかし、また次の悩みが訪れ……。繰り返しとなるでしょう。そこで感じたことは、「悩み、もがく時」が、成長している時であり、「克服し満足している時」は、到達点であり成長していかない時かも知れないということだと思います。また、克服できなかったとしても悩んだことで成長しているということです。

新たな道へ、頑張れ、林大生。い」とは言うつもりはありません。悩んでいる自分を嫌いならないで下さい。立ち止まり日に当った降り積った雪を見た時、ただ光っているだけ。自分が動くことで、その光はキラめくように自らが動くことによって、見えなものは見えるようになるのではないのでしょうか。

夢に向かつて

城 英幸



昨年末に、息子より長野県内の林業関連に就職が決定したとの連絡をもらい、私たちは大変喜びそして今年の良い正月を迎えることが出来ました。これはひとえに林業大学の皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

私たちは森林に關してはぶの素人ですが、国土を守る林業の道に進んでくれることには大賛成です。他の子供さんたちより十年遅れで息子は人生を進めているようですが親としてはその間いろいろな経験をし厚みのある生活を送っていると思いい全然気にしていません。これから自分の選んだ道を、夢に向かつて一歩一歩自分のペースで前進していつてほしいと思います。そして一生懸命勉強という心を忘れず常に学び続けて行つて欲しいと願っています。

最後にになりましたが、今年の秋には初めて長野を私たち夫婦で訪問する予定です。元気で林業の仕事に打ち込んでいる息子に会えるのを今から楽しみにしています。

森と山に育まれて

根岸 清



私と木曾との出会いは今から四十二年前、郵便列車に勤務していた頃からです。木曾福島駅で真つ黒な蕎麦を食べたことが懐かしいです。

その木曾、林業大学校に学舎を求めるとは、木曾は縁のある土地だなと感じています。



中部森林技術交流発表会 【奨励賞】 (長野市)

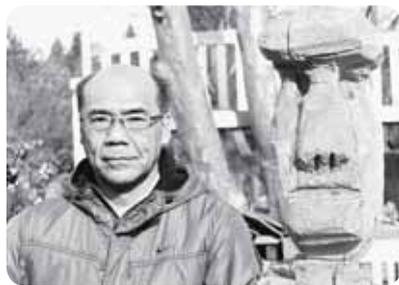
入学式の日、アルバイト先日には造園部を立ち上げたという電話、まさに猪の如く猪突猛進で突つ走つてきました。病氣やケガで心配しましたが、ようやく就職先も決まり、高校時代の恩

師も喜んでいきます。また、大部分の同級生が県内への就職ということ、仲間同士の繋がりにも力を得たようです。娘よ！夢に向かつて猪になれ！

未熟な娘を二年間指導、支援して下さいました職員の皆様、生活と共にした寮友、病気の時大変お世話になった寮母さんに感謝、感謝です。林業大学校、素晴らしい二年間をありがとう！

親の林大

子の林大 横川 光雄



さに至れり尽くせりの林大生活でした。息子にとつても先輩、同級生、後輩と生活を共にすることで、協調性を身につけられました。これは寮生活でなければ経験できないもので、社会に出てから必ず役に立つでしょう。

在学中に、御嶽山噴火という悲しい出来事があり、一時はどうなることかと心配しましたが、木望祭が開催された時に学生の皆さんの元気な姿を見て安心しました。被害にあわれた皆様の一刻も早い復興を祈っております。

入学したかと思つていたら、あつという間の卒業、たくさんの人に支えられ息子は充実した時間を過ごすことができました。寮生活は常に誰かがそばで見守っていてくれるので心配ありませんでした。経済的にもそれほど負担にはならず、親にとつてはま

お世話になった学校関係者様、木曾地域の皆様には、二年間、温かく見守つて下さつて頂き、親子ともども感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

(写真は、木望祭記念、石井君制作モアイ像とともに)

やりがい。



木曾森林管理署  
南木曾支署  
一般職員  
源田 聡子

飛騨森林管理署に二年、木曾森林管理署に二年、木曾森林管理署南木曾支署に転動して二年目になります。現在は経営・ふれあい担当の係員を

人生を切り開く  
「考え方」



教授  
竹内 玉来

本校には「人生を切り開く力を養う」という教育理念がある。初代校長の市川圭一先生の言葉だ。  
「人生を切り開く『力』とはどんな『力』なのか...。赴任してきた当初は良く分らなかったこの『力』の概念

檜のアドバイス

しています。

「森林管理署って何??」「どんな仕事?」と良く聞かれることがあります。一言では説明出来ません。頭には防蜂網を付けたヘルメット、手には防蜂網、腰には鉋・鋸、足にはスパイク付きの地下足袋、GPSに野帳に図面に(業務内容によって持ち物は異なりますが)：道なき道を歩き、時には自分の背丈以上の笹を泳ぐ(潜る??)ように歩き、目的地を目指す。私達

を、私は独自に「考え方」であると解釈した。

「考え方」は自らの全ての行動を司るものであり、知識や技術よりも上位にある。「もつと学びたい」「もつと技術を磨きたい」と思うのも、それは根底に「向上したい」という「考え方」があるからだ。この「考え方」を変えていくことで、今後の人生はいい方向に変えることができ

る。  
ところで、私が授業中に行う雑談の一つに、「人生を何

の仕事は実際に山を見て、環境を整備し、森林の公益的機能を発揮させる仕事です。なんて立派なことを言ってみても、今の私には目の前の仕事をただ精一杯やることしか出来ません。

嫌なことがあります。装備は重い。物品のサイズは大きい。汗で化粧は取れてしまうから常にスッピン。爪は衝撃で折れてしまうことがあるから常に短く整える。給料は安い(これ一番言いたい)。

かに例える?という問いがある。学生がしばらく考えて各人の答えを発表してもら

うと、「日記」「ロールプレイングゲーム」「登山」「綱引き」「宇宙」「空」「海」など、様々な答えが返ってきて面白い。どの様な「人生観」を持つかは人それぞれだが、この人生観の中に「成長」という概念が入っているか入っていないかは、大きな違いとなると私は考える。

例えば、デイズニー映画「プレインズ」のように「擬

楽しいことがあります。道なき道を歩いて目指していた場所に辿り着いた時。山の様々な姿を見て圧巻された時。木曾檜の巨木を見た時。初めてヘリ集材を見た時。いつ出来たか分からない顔や腕や足の傷、いつぶつけたか分からない足の痣を見て苦笑いした時。

何が言いたいかと言うとやりがいのある仕事とは、「嫌」なことがあるてもそれを上回るくらい自分が「楽しい」と

自分自身を訓練することで「高く」「速く」飛べるイメージ、「進化」させるイメージがある。小さな学校で一般教

養と専門教育という「知識」と「技術」を学ぶ林大生には、ぴったりの人生観だ。また、「樹木」という人生観も、「根を張る」「枝を伸ばす」「花を咲かせる」など、成長の概念が入ったイメージだ。しかも、一年ごとに「年輪を刻む」という、キャリアや能力を成長させる概念があるため、「年単位」「十年単

位」で成長していく社会人には、うってつけの人生観である。

考える仕事こそ、やりがいのある仕事だといえる。私の職場にぜひ興味を持ってください。嬉し

思える仕事こそ、やりがいのある仕事だといえる。私の職場にぜひ興味を持ってください。嬉し

このような人生観は「考え方」の一例であるが、学生のうちにいい「考え方」に出会い、吸収していくことで今後の社会人生活に差が出てくることだろう。是非、林大で「人生を切り開く『力』(＝考え方)」を身に付けて欲しい。いつか一回り大きくなった諸君達と再会したい。ただし、脂肪で肥大成長してはダメだ。くれぐれも健康には注意して欲しい(笑)。

# 我 ら 林 大 生 !

## 第35回 卒業式



### ホイマージャーさん来日



チェーンソー  
目立て実習

静岡県立  
農林大学校  
からの訪問



### 編集後記

御嶽山が噴火して半年ほどたった。なぜ、あれほどの条件がそろったタイミングでの噴火だったのかと思わずにはいられない。

噴火直後で被災状況が少しずつ見えてきた頃の話である。いつもより遅くまで事務室に残っていた時、突然地元出身の二年生が事務室に現れ話を始めた。「今役場の友達と会っていた。災害の話になった。町のコンビニには報道陣や被災関係者が多くくる。地区の公民館には安否不明の家族が身を寄せている。林大近くの公民館にも関係者がいる。このような状況の中では不用意な発言はできないし、してはいけない……」こんな趣旨だったと思う。

自分たちには何ができるのだろうかと考えたに違いない。決して無関心を装うということではなく、そつと見守る事が今できる最善の事と思いついたのだらう。翌朝の朝礼で他生徒にもこの話をしてもらった。他者を気遣える学生がいてくれた事。素直にうれしかった。

「而今に生きる」という言葉がある。過去でも未来でもなく、「今この瞬間を精一杯生きよう」とするもの。この先に何があるかは誰にもわからない。卒業生のみなさん、他者を思いやり、而今に生きてほしい。卒業おめでとう。  
(下)